

## ロシア(極東)

### 景気後退が明らかなロシア経済

ロシアの実質GDP成長率は2015年第1四半期が前年同期比2.2%のマイナス成長、第2四半期が同4.6%のマイナス成長で、2期連続でマイナスとなり、しかもそのマイナス幅が拡大している。2014年は何とかプラス成長を維持していたものが、2015年になって大きく崩れてきている。

景気後退の最大の原因と考えられているのが、原油など天然資源の国際価格の下落である。ロシアの代表的な原油指標価格である「Urals」は、2014年1～9月の平均価格が1バレル105.1ドルであったのに対し、2015年同期の平均価格は54.4ドルにまで低下した。足下では、8月45.6ドル、9月46.7ドルと、一層低い水準に下がっている。こうした状況の下、1～8月の原油輸出は、量(トンベース)では7.2%増加したものの、金額(ドルベース)では42.6%も減少した。最大の輸出品目がこれだけ大きく減少したことが影響して、同期間の輸出総額は、対前年同期比31.7%減の2345億ドルとなった。これに対して、輸入額は同38.9%減の1181億ドルであった。差し引き1164億ドルの黒字であり、前年同期より334億ドル減少しているものの、相当に大きな貿易黒字を維持しているといえる。しかも、2014年前半は1ドル30ルーブル台だった為替レートが、2015年前半は1ドル50～60ルーブル台の水準で推移しており、自国通貨建てでの貿易黒字は一層大きなものとなる。

このように見ると、景気後退の主要因は国内にあることになる。そこで注目すべきなのは、家計消費である。2015年1～9月の小売売上高は対前年同期比8.5%の減少となった。今年に入り、すべての月で対前年同月比マイナスを記録している上、第3四半期にはマイナス幅が拡大している。第3四半期の消費者信頼感指数は、マイナス24%と、非常に低い水準にある。国内最大の消費都市であり、消費文化をリードするモスクワ市で1～9月の小売売上高が11.5%減少(対前年同月比)であることから、消費マインドが沈滞していることが示唆される。同時期の全国の実質可処分所得は同3.3%減少し

ており、消費行動が活発化に転じる材料は見当たらない。

これに加えて、固定資本投資の減少傾向はすでに2013年半ばから続いており、深刻さを増している。ルーブル安を契機とした輸入代替の進行が期待されているものの、投資が低調である状況では、輸入代替の進展もおぼつかないだろう。

### 中期経済見通し

経済発展省は、毎年9月に3年間の中期経済見通しを発表している。これは、年末にかけて国会で審議される次年度から3か年の中期予算の議論の前提材料となるものである。しかし、2015年は中期経済見通しの公表の時期が10月下旬に遅れたことに加え、予算案も中期ではなく、2016年単年度のものとして議会に提出された。不透明な先行きゆえの苦渋の判断だったものと理解される。今回発表された見通しでは、「基本シナリオ」に加えて、「保守的シナリオ」(低めの数値)および「目標シナリオ」(高めの数値)が示されている。

基本シナリオによれば、2016年から3年間のGDP成長率予測は、それぞれ0.7%、1.9%、2.4%となっている。一年前に発表された見通しでは2016年は2.3%成長としていたもので、3分の1以下に引き下げたことになる。ちなみに、保守的シナリオでは、2016年はマイナス成長(1.0%)が続き、2017年にプラス成長に復帰すると見通している。

輸出額にもっとも大きな影響を及ぼす原油価格(Urals)は、基本シナリオと目標シナリオでは、1バレルあたり50ドル、52ドル、55ドルと少しずつ上昇することを前提としている。これに対して、保守的シナリオでは3年間にわたり40ドルにとどまるとの想定である。時に投機の対象ともなる原油市場価格の動向を正確に予測することは、事実上不可能である。ロシア政府としては保守的シナリオにおいて最悪のケースを想定したということだろう。当然のことながら、各シナリオで輸出入額の予測値は異なるが、いずれのケースでも単年度の貿易黒字額は1000億ドル以上を確保するとの見通しである。

この貿易黒字を上手に活用して、輸入代替を進めることができれば、景気回復の道は明るくなるだろう。

(ERINA調査研究部長・主任研究員 新井洋史)

(対前年同期比)

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2014			2015					
							1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q	7月	8月	9月
実質GDP	▲7.8	4.5	4.3	3.4	1.3	0.6	0.6	0.7	0.9	▲2.2	▲4.6	—	—	—	—
固定資本投資	▲135	6.3	10.8	6.8	▲0.2	▲2.7	▲5.3	▲1.9	▲1.5	▲3.6	▲6.7	▲6.8	▲8.5	▲6.8	▲5.6
鉱工業生産高	▲9.3	7.3	5.0	3.4	0.4	1.7	1.1	1.8	1.5	▲0.4	▲4.9	▲4.2	▲4.7	▲4.3	▲3.7
小売売上高	▲5.1	6.5	7.1	6.3	3.9	2.7	3.9	2.1	1.6	▲6.4	▲9.2	▲9.5	▲9.1	▲9.1	▲10.4
実質貨幣可処分所得	3.0	5.9	0.5	4.6	4.0	▲0.7	▲3.2	0.8	2.3	▲1.3	▲4.4	▲3.9	▲2.0	▲5.3	▲4.3
消費者物価*	8.8	8.8	6.1	6.6	6.5	11.4	2.3	4.8	6.3	7.4	8.5	10.4	9.4	9.8	10.4
工業生産者物価*	13.9	16.7	12.0	5.1	3.7	5.9	2.3	4.3	5.2	9.2	11.5	12.0	13.1	13.2	12.0
輸出額(十億ドル)**	301.7	397.1	516.7	524.7	527.3	497.8	122.7	132.9	126.0	90.3	91.5	—	27.4	25.3	—
輸入額(十億ドル)**	167.3	228.9	305.8	317.3	315.0	286.7	66.9	75.5	75.0	42.1	44.8	—	15.8	15.4	—

\*前年12月比。

\*\*税関統計ベース。

\*\*\*斜体は暫定(推計)値。

出所:「ロシアの社会経済情勢(2015年9月号)」ほか、ロシア連邦国家統計庁発行統計資料